

## 「地域を愛し、地域とともに生きる子」を育む ～ 蒲郡市のめざす「小中一貫教育」～

蒲郡市では、令和8年4月の西浦学園(義務教育学校)の開校と同時に、全中学校区で「**小中一貫教育**」を導入します。

### 「小中一貫教育」を導入するにあたっての経緯

本市は、令和3年度に「地域と連携した『新しい学校づくり』検討委員会」を立ち上げ、先進校を視察し、小中一貫教育の効果と課題について検討しました。その結果、学校規模に関わらず9年間の学びをつなげることが、地域と連携した「新しい学校づくり」において教育的効果が大きいと認められたため、**市内全小中学校での導入が必要である**という結論に至りました。

そこで、令和5年度には、モデル地区(西浦中学校区・蒲郡中学校区)において「小中一貫教育」を推進するとともに、全市で小中連絡会を中心に、各中学校区での小中一貫教育を検討してきました。

令和6年度には、市内すべての中学校区に小中一貫型の学校運営協議会を設置し、全小中学校を「コミュニティ・スクール」としました。それにより、地域と学校が一緒になって、「育てたい15歳の子どもの姿(めざす子どもの姿)」のイメージを共有し、ともに子どもたちを育てていく体制が整いつつあります。これを機に、本市では、**令和8年度より全中学校区で「小中一貫教育」を導入します。**

### 蒲郡市のめざす「小中一貫教育」とは

中学校区を「一つの学校」とイメージし、地域とともに、義務教育の9年間の「学び」と「育ち」を、発達段階を踏まえて切れ目なく支えていきます。

そこで、「蒲郡市の小中一貫教育」の定義を以下のとおりとします。

- ・小中学校の教職員と地域が「めざす子どもの姿」を共有する
- ・地域素材を生かした9年間の教育課程を編成し、系統的な教育を行う

「つなげる」をキーワードに、「思い」「人」「学び」「活動」「教職員」の5つの視点にそって、**学校と家庭、地域が一体となつて行う「蒲郡市の小中一貫教育」**を推進します。そして、「**地域を愛し、地域とともに生きる子**」を育てていきます。

## 蒲郡市の小中一貫教育

# 「5つの視点」



蒲郡市の「小中一貫教育」は、「つなげる」をキーワードとした、以下の5つの視点に沿って、各中学校区で取り組んでいきます。

### 「思い」をつなげる

「めざす子どもの姿」を学校・家庭・地域で共有し、「思い」をつなげます。



学校運営協議会での熟議



地域の方と行うあいさつ運動

### 「人」をつなげる

学校と地域が協働して教育活動を行うことにより、子どもと地域の「人」をつなげます。

### 「学び」をつなげる

9年間を通じた教育課程を編成し、連続性・系統性を意識した教育活動を行うことで、子どもの「学び」をつなげます。



中学校教員による小学校での授業



2小学校合同校外学習

### 「活動」をつなげる

小ー中学校間(前後期課程間)・小ー小学校間での合同行事や異学年での交流等を通じ、子ども同士の「活動」をつなげます。

### 「教職員」をつなげる

小ー中学校(前後期課程)・小ー小学校合同で教職員の研修・授業参観・交流等を行い、学校間の「教職員」をつなげます。



小中学校教職員合同研修会



# ここから始める 小中一貫教育の取り組み

## (1) 「思い」をつなげる

- ア 学校運営協議会にて「熟議」を実施し、学校・家庭・地域で「めざす子どもの姿」共有します。
- イ 学校運営協議会に教職員や子どもたちも参加する機会を設けます。
- ウ 各中学校区のランドデザイン、各校の経営案に、小中一貫教育の内容を記載し、各学校の取り組みを保護者や地域に周知します。

## (2) 「人」をつなげる

- ア 地域学校協働活動を推進し、地域の人・もの・ことを生かした教育活動を行います。
- イ 地域の活動に、児童生徒が企画段階から参加できるよう、地域との連携体制を取ります。

## (3) 「学び」をつなげる

- ア 地域素材を生かした「生活科・総合的な学習の時間のカリキュラム」を作成します。
- イ 学習内容の重なりや抜けがないよう、段階的に学力を伸ばす工夫をします。
- ウ 9年間の教育課程を小中学校の教職員で共有し、周知を図ります。
- エ 小学校での教科担任制、乗り入れ授業の実施を模索します。
- オ 「生活や学習のあり方」や「ICT活用方法」について、小学校間での学習到達目標や基本的な進め方を合わせます。

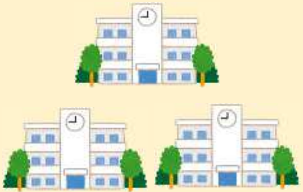



## (4) 「活動」をつなげる

- ア 学校間で合同行事や授業の交流を計画的に行い、互いに尊重して高め合う機会を創出します。
- イ 社会性やリーダーシップを育むような、異学年の活動を計画的に行います。

## (5) 「教職員」をつなげる

- ア 「小中連絡会（学区企画委員会）」等を行い、小中一貫教育推進の具体的な方針・取り組みを検討します。
- イ 授業交流、合同現職研修を実施し、授業力向上をめざして研修します。
- ウ 生徒指導や学習指導について情報共有をし、小中学校間で指導方針を統一します。
- エ 児童生徒個票や指導の記録などの書式を統一し、学年や校種に関係なく、全職員が活用して児童生徒理解に努めます。

## 蒲郡市における「小中一貫教育」の二つの形態 (R8年度現在)

	小中一貫型小・中学校		義務教育学校	
組織	それぞれの学校に校長・教職員組織		一人の校長 一つの教職員組織	
種類	施設分離型 	施設一体型 	施設分離型 	施設一体型 
中学校区	蒲郡・三谷・塩津 大塚・形原・中部	—	—	西浦(R8.9~)

### 「小中一貫教育」を導入することで考えられる効果

- ☆ 「めざす子どもの姿」を小中学校の全教職員・家庭・地域が共通認識することで、共有した教育方針のもと、家庭・地域との連携・協力体制がさらに強化され、**一貫性のある教育**を受けることができます。
- ☆ 小中学校の全教職員が義務教育9年間の学習内容を共通理解し、系統的な教育活動を行うことで、**基礎基本が定着し、児童生徒の学習意欲が向上**します。
- ☆ 学習や人間関係等の環境の変化をゆるやかにし、小学校から中学校への円滑な接続を図ることで、**安心感のある学校生活**を送ることができます。
- ☆ 学校間の枠を超えた交流が活性化されることで、多様な人と出会い、**思いやりの心やコミュニケーション能力などの社会性**が育まれます。
- ☆ 校種を超えた異学年交流活動を意図的に位置づけることで、上級生が「良き模範」となり**「自己肯定感」の向上**につながります。また、下級生にとっては、**上級生の姿を自己の成長の道標**としてイメージすることができます。